

# 災害時の民間支援から見た インターネットインフラへの期待

及川 卓也 (一般社団法人情報支援レスキュー隊)

大江 将史 (大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 国立天文台)

佐藤 大 (一般社団法人情報支援レスキュー隊)

西田 圭 (株式会社QTnet)

宮川 祥子 (一般社団法人情報支援レスキュー隊)

# セッションの目的

災害現場のITニーズについて、特に民間支援団体による共助でのIT活用に焦点を当てて、インフラ・サービス提供者との間のMissing Linkを見つけ出します。

災害時のネットワークインフラ・サービスの取り組みを行っている登壇者や会場の皆様と災害支援現場でのインターネットへの期待と現状の課題についてディスカッションし、災害時にレバレッジの効いた支援を行うために、JANOG会員やIT DART (登壇者中3名が所属する災害支援のプロボノ団体。後ほど紹介) と民間支援団体との間でどのような協働が可能かを考えていきます。

# 流れ

- 災害支援の現場からの話 - 自己紹介を兼ねて(30分)
  - 2011年、インターネットは被災地を支援した [IT DART 佐藤]
  - 災害時の民間支援の役割、そしてIT支援への期待 [IT DART 宮川]
  - 何が必要とされ、何を準備すべきなのか？ 3.11を振り返り、今を見る [国立天文台 大江]
  - 災害時の民間支援から見たインターネットインフラへの期待 —熊本地震— [QTnet 西田]
- 議論 (15分)
- 会場参加者との議論 (15分)

# 議論

- インフラ提供側から見た景色と支援者側から見た景色の違いについて
  - 各登壇者の発表を踏まえて
- 民間支援団体への効果的なインターネットサービスの提供方法とは？
  - 効果的なインターネットサービスとは？
  - 時期や状況によって期待される内容は？
- 次の大規模災害までにどのようなコラボレーション・体制作りが可能か？

インフラ提供側から見た景色と  
支援者側から見た景色の違い

民間支援団体への効果的な  
インターネットサービスの提供方法とは？

次の大規模災害までにどのような  
コラボレーション・体制作りが可能か？

会場から